

探求力を育む算数の授業づくり

宮北小学校 東坂雅之, 赤井泰子
大新小学校 土山泰弘
附属小学校 小谷祐二郎
教育学部 西山尚志, 山本紀代

本研究の目的と概要

本研究は、和歌山大学附属小学校と和歌山大学の教員が連携して、附属小での教育実践に取り組むことで、授業改善や授業内容・教材についての新しい試みを行うことを目的としている。特に附属小学校での授業や、研究大会とその準備等を通して、授業実施についての検討や、授業の内容についての協議を行い、附属学校での貴重な実践の機会と大学の専門性を組み合わせ実践的な授業内容・教材の構築することを目指している。

この研究は、和歌山大学の教授であった片岡啓教員と小谷が始めたもので、これまで課題名を変更しながら継続して行われているものである。片岡教員の転任に伴い、昨年度より大学側は西山が担当することとなった。また今年度からは、宮北経学校から東坂雅之教員、赤井泰子教員が、大新小学校から土山泰弘教員が参加することとなり、和歌山大学からも山本も加わることとなった。

今年度の研究課題

平成29年に出された新しい学習指導要領では、「アクティブラーニング」の視点が入り入れられるなど、児童が主体的に学習に取り組んでいけるような授業づくりを行うことがより求められるようになった。授業においても、知識だけでなく、活用できる力をつけることがより目指されるようになってきている。このような流れの中で、附属小学校では、平成27年度より研究主題を「問い続け、学び続ける子どもたち」とし研究に取り組んでいる。

算数科においても、これまでの授業に比べてより活用・応用を意識した授業を行うことが必要とされている。このような背景から、本年度の研究課題を「探求力を育む算数の授業づくり」とし、児童が主体的に課題に取り組み、疑問・課題を持ち深めていけるような算数の授業内容・教材開発について研究を行うこととした。

本研究の活動概要

学力調査などの結果から、算数教育では、児童の割合の意味の理解について課題がある

ことがわかっている。平成29年3月公示の学習指導要領では、「簡単な割合」が4年生の授業内容に導入されるなど、割合学習の指導に変更が行われており、授業内容についてもこれまでのものから変更されていくことが考えられる。

小谷は、これまでも片岡教員らと「割合」分野を中心にその指導法について研究を行っていたが、これまでの研究では不十分に感じられた部分もあった。そこで今年度も、小谷の附属小で「割合」指導について実践授業とその振り返りを通して、子供たちが活動を通じて学びを深めることができるような算数教材の工夫について検討した。

実施においては、附属小学校での研究授業に向けた協議会を小谷と西山で行い小谷が用意した授業内容や指導法について検討を行った。附属小学校での研究大会では、小谷がアルティメット競技のパスの回数とキャッチした回数について、児童たちが実際に体育の授業で得たデータをもとに「どのチームが一番パスが通っているといえるか」という課題を考える授業を行い、授業内容について討会・協議会を行った。

授業では、児童が積極的に課題を考える姿勢が見られ、日常生活から題材を取り上げた授業として、生徒の自主的な活動を引き出せる点など、一定の手ごたえが得られたが、振り返りなどで割合の概念理解については、課題がある児童も見られた。この点については今後の授業で、概念理解等も強化していきたいと考えている。

課題と展望

西山の調整不足もあり、今年度については、日程を合わせることができず、ほとんど授業参観や協議ができなかった。また今年度から新しく加わっていただいた先生方のお力をお借りすることもあまりできず、消化不良となってしまった感がある。西山がもっと附属と緊密に連絡を取り、協力して進めるべきであったと反省している。

附属学校と大学との連携はより一層求められる状況になっており、今後も連携を継続・強化していくことが必要である。来年度以降も継続して取り組んでいきたいと考えている。今年度の実施については、その反省をし、来年度については、今年度の反省を踏まえてよりよい取り組みができるようにしていきたい。